別紙様式２

令和６年度　大学活性化経費　事業成果報告書

事業区分	（２）ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ化に対応した人材育成に関する事業 （６）その他、大学の活性化に貢献する取り組み
申請組織	外国語学部
申請組織長	**役職名**　外国語学部長　　**氏名**　藤岡阿由未
統括責任者	**役職名**　外国語学部教授　　**氏名**　水島　和則
課題名	SUGIYAMA 学外エアライン研修の実施

	役　割	氏　　名	所属・役職名	役割分担
事業組織	統括責任	水島　和則	外国語学部教授	事業全般を担当
	事業協力者	小澤　英二	外国語学部教授	事前・事後指導を担当

１．事業開始の背景・経緯や目的等（200 字～300 字程度で記述）

エアライン業界志望者が広く学内に存在することをふまえ、キャリア育成センターや各学部で行うさまざまなオリエンテーションを補完するための事業として構想された。具体的には、空港や航空会社へ足を運び、施設見学や実際に業務に従事している方々と交流することにより、航空業界・職業への理解を深めることを目的とする。また、空港でのインターンシップは人気が高く定員を希望者が上回って選抜が実施される状況にあるため、空港業務を実際に見学したいという学生の需要に対応することも目的のひとつとしている。

客室乗務員や空港地上職の仕事は、一般的なイメージと実際の業務内容とにギャップがあり、それが早期離職の原因にもなっている。この研修は、エアライン業界をめざす学生にとって、そのギャップを埋め、進路と卒業後のキャリアについて掘り下げて考え、現在自身が何をすべきかを考える貴重な機会となる。

２．事業方法（特色・独創性）等（300 字程度で記述）

航空業界で活躍する本学の卒業生や各企業との信頼関係が構築されている中で実現が可能となる企画であり、一般では見学ができない施設への立入りや、OG・企業の担当者からの生の声を聴くことができることが、この事業の特色である。

コロナ禍で大幅に数が減ったものの、毎年航空業界への就職希望者が一定数見込まれる本学の状況において、本研修はキャリア教育の一環として、学生の就業観を高める一助となることが期待でき、学生自身がこれからの大学生活をいかに過ごしていくかを考えるヒントを与えることができると考える。

本研修に参加するためには、事前指導へ出席することが必須で、学生自身が本研修への参加目的や意義を考える機会を設けることができ、より深い業界理解・職業理解へとつなげることができる。

３．事業の成果（600 字～800 字程度で記述）

今年度、あいち航空ミュージアムでの見学では、航空業界を引退されたボランティアの方々から展示された航空機やヘリコプター、一部再現された機内施設をもとに航空業界の歴史や現状についてお話をうかがった。

訪問した関西国際空港の A 社では、地上サービス部の現場見学と、滑走路に下りたってのグランドハンドリングの現場見学を実現した。学生たちは、職員からの説明をもとに着陸した飛行機が再び飛び立つまでのプロセスを目の当たりにし、一部の作業は実際に体験できた。現在、グランドハンドリングは人手不足の状況にあり、地上職と統合する採用をおこなう空港も増えている。学生たちにとっては、地上職のみならずグランドハンドリングの仕事について理解を深める貴重な機会となった。見学後は質疑応答を含めて職員の方たちと話し合う交流会が設定され、現場で働く人たちの声を聴くことができた。2 日目の午後には関空のガイド付ツアーに参加し、関西国際空港の総合的な姿を学ぶことができた。

さらに今年度は、大手航空会社に客室乗務員として長年勤務され、採用や新人研修・訓練にも従事された方が面接、準備セッションを含めて研修に参加された。その方は面接時の立ち居振る舞いや受け答えについて学生に詳しい助言と指導をおこなった他、ホテルでの夕食時にはマナー研修をおこない、学生から有益な時間であったという評価を得た。

また、参加した学生はお礼状という形で、本研修で学んだことや、考え方の変化などを文章にすることにより、自分自身で振り返りを行うとともに、今後のキャリアを考える機会も得ている。

加えて、この研修は本学と見学先企業との信頼関係をさらに強める効果があったといえる。

総じて、学生たちにとっては、実際に現場を見て関係者と話さなければ得ることのできない知識、経験を吸収できることが本事業の意義であり、今年度もその目的を達成できたと考える。

４．キーワード（本事業のキーワードを１つ以上８つ以内で記載）

①　航空業界理解	②　業務内容理解	③　現場体験	④
⑤	⑥	⑦	⑧

５．事業の達成状況及び今後の課題（事業の達成状況を踏まえて、課題、反省点、及び今後の取組みを具体的に記載すること。）

研修には学生 17 名が参加し、トラブルや当日欠席もなく 2 日間にわたるプログラムを遂行した。あいち航空ミュージアム訪問は航空機と業界について理解を深める学びの機会となり、開催国際空港の A 社の企業見学はオペレーションサービスとグランドハンドリングについての理解を深める機会になった。

課題としては、各社とのスケジュール調整が年々難しくなり、1 日目に客室乗務員の仕事を見学し、2 日目に地上職の見学をするという理想的な研修を組めなかったことが挙げられる。また、今年度の企業見学ではそこで働く椙山 OG との交流はできなかった。

研修に同行された元大手航空会社の客室乗務員の方からの助言をもとに、来年度は異なる形式での研修をおこなうことを検討している。